

# 1年生カラマツコンテナ苗の品質を向上させる施肥量と育苗密度

長野県林業総合センター 育林部 二本松裕太

背景：1年でのカラマツ苗生産は可能

課題：品質が悪い！

- ・需要の多いコンテナ苗は育苗コストが高い
  - ・コスト低減のため1年生カラマツコンテナ苗を検討
- ⇒ 生産方法の改良で **1年での生産が可能**に

- ・施肥をすれば大きく育つが**形状比が悪い**
- ・細長い苗は初期成長が悪く、植栽後に倒伏する個体も散見される

## ◎施肥量と密度の調整で苗高25cm以上、形状比80以下の良苗の生産方法を検討

### 試験内容

- (1) 元肥量  
少・中・多
- (2) 密度  
24本・30本・40本  
(1コンテナあたり)



発芽直後の苗(毛苗)を移植



苗畑で作った1年生幼苗ではなく...



### 結果

- 元肥が多いほど苗高は高くなるが形状比も大きい(細長い)苗になる
- 元肥=少では得苗数(苗高25cm以上)が下がり、中・多では半数が形状比90超
- 密にすると苗高は高くなるが30本以上にすると形状比は悪化

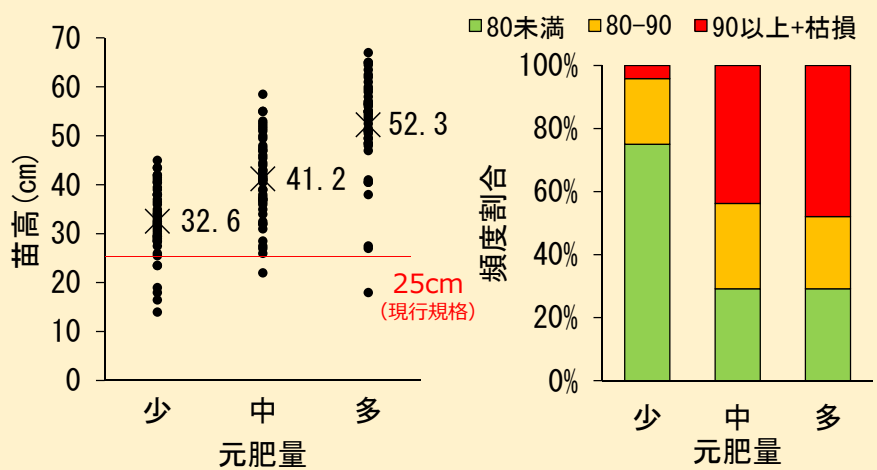
▼さらに・・・  
高密度で苗高を大きくすると、



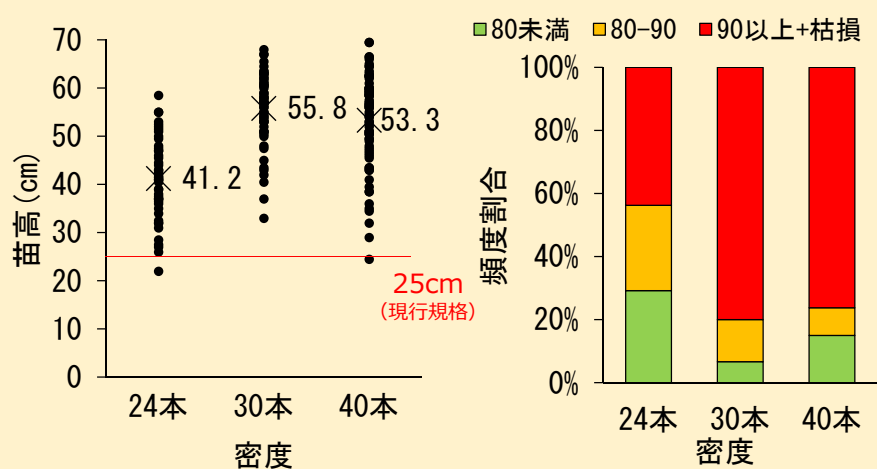
元肥「少」  
24個体

元肥「中」  
40個体

- 下枝の枯れ上がりが激化し、枝張りのしっかりした良苗形状にならない
- 灌水が行き渡らない弊害や、病虫害のリスクも懸念



(1) 元肥量と苗高(左)・形状比(右)の関係  
(育苗密度：24個体/コンテナ)



(2) 育苗密度と苗高(左)・形状比(右)の関係  
(元肥量：中)

### まとめと今後の課題

苗高25cm以上かつ形状比80以下を目指すために、

- ★元肥量は「少」、密度は24本以下が適当と思われるが、得苗率に難あり
- ★養分(窒素-リン酸-カリウム)のバランスや適正密度の再検証が必要